
君の行方はどこですか？

水風 世兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の行方はどこですか？

【Nコード】

N5132I

【作者名】

水風 世兎

【あらすじ】

平凡なある男の子、キルがずっと前から見ている夢を探し出すためにルクセンブルクへと旅立った少年、キル
そこでみつけた意外なものとは！？

プロローグ（前書き）

ルクセンブルクという国を舞台にしています。

少々、ルクセンブルクの文化や歴史等は

できませんが、登場人物は何の関係もありませんので
ご注意ください。

プロローグ

「君の行方はどこですか？」

「え？僕はここに・・・」

「君の行方はどこですか？」

「だから、僕はここに・・・！」

「ここは君の場所じゃない。

ルクセンブルクで待ってるよ・・・」

「ルクセンブルクってどこなの？」

君は誰なの！？僕の場所ってどういう・・・」

にやりと笑ってこういった。

「君の行方はどこですか？」

ハッ・・・。小さい頃からずっと見ている夢。

真っ白な世界で僕と少女の二人だけ。

少女は必ず「君の行方はどこですか？」と

僕に尋ねるのだ。

もう同じ夢を見れなくなってしまうことを
少年はまだ知る由もなかった。

プロローグ（後書き）

はじめまして。こんにちは^^

読んでいただきありがとうございます！

この小説はルクセンブルクという国を舞台にしたものなのですが
なぜこの国にしたかという点ですね
写真ですが、町並みがすごくオシャレで
かわいらしいんですよ。

自然もあって憧れてしまう・・・！

そんなこんなでこれから、よろしく願いします！

第1章 出発の先には？（前書き）

ルクセンブルという国が出てきていますが
この小説の話や登場人物には何の関係もありません

第1章 出発の先には？

僕はあの夢を探るために、あの少女が言っていたルクセンブルクという場所へ行くことにした。しかし、最初にクセンブルクを知った時はかなり驚いた。

ルクセンブルクは街のことではなく国のことだったからだ。

まったく知らない国。文化や言葉だってちがうのに・・・でも、その心配はすぐに消えてしまった。

行った事もないのに、不思議とルクセンブルクの人や言葉、情景が頭の中にしつかりと残っているのだ。

「おかしい・・・僕はこんな言葉も町並みも見ることがないのに・・・」

そう思っているうちに、僕はいつの間にか眠ってしまっていた。

「君の行方はどこですか？」

「君こそだれなの？僕に何しろって言うの！？」

クスッ・・・

少女が薄く笑う。

あれ・・・？今日はいつもと何か違う・・・

すると、少女はゆっくりと言った

「知りたいのなら来ればいいの。さあ、いらっしやい・・・」

「ルクセンブルクへ・・・」

僕はハッと目を覚ました。

心臓がドキドキしている・・・

こうして僕は、ルクセンブルクへと旅立つことを決めた。
やっこの思いで飛行機に乗り、僕は出発した。

第2話

ルクセンブルクに降り立った時、すごく懐かしい不思議な感じがした。

僕はなんの手がかりもないまま、歩き続けた。ただ足が引く張っていく方向へ行くだけだった。

気がつく人と通りの多い、街まで来ていた。

まったく知らない人ばかりが歩いているのに、この街だけは懐かしい気がする……。

ツンツンと誰かが、僕の裾を引っ張っている。

「お兄ちゃん、一人なの？」

僕よりも年下の小さい女の子だ。

びっくりして「えっ!？」と大きな声が出てしまった。

ゆっくりと落ち着いて「そうだよ。」と

にこやかに答えた。

すると、その女の子は無邪気に笑って、こう言った。

「じゃあ、一緒だね!どこか行くとこあるの？」

一瞬、なんて答えればいいのか

選ぶ言葉を失ってしまった。

「そうなんだ……。行く場所は、ないけど……」

「なら、いいところを教えてあげる!」

そういつて、女の子は僕の手を引いた。

それについていくように、僕も走った。

すると、そこには自然と小さな町並みが広がっていた。

「そこにいるのは誰？」

その声の心臓がドキドキする

第2話（後書き）

自然と小さな町並みとでてきている場所の説明

その古い街並みと要塞群という文化遺産に登録してある場所です。
詳しく知りたい時はルクセンブルクが古い街並みと要塞群と検索
すると出てきますよ^^

第3話（前書き）

この小説に出てくるルクセンブルクは
登場人物とはまったく関係ありませんので
ご承知ください

第3話

「そこにいるのは誰？」

ドキッとして僕は振り向いた。

するとそこには髪の長いきれいな女の人が
少し驚いた様子でこっちを見ていた。

「こんなところにお一人さんかしら？」

彼女はニコツと僕に話しかけた。

「え？一人？今ここに・・・」

あれ？さっきの女の子が居ない・・・
今まで僕の隣にいたはずなのに・・・
一体どこへ？

「どうかしたのかしら？もしかしてはぐれちゃったの？」
ハッとした。

僕は慌てて答えた

「いえ！なんでもないんです！気にしないでください！」
とつさに言った一言がこれだ。

自分でも呆れてしまう。

それにあの女の子のことも気になって仕方がなかった。

「そう？ならいいんだけど・・・。ところであなたの名前は？」

「僕はキルです。ちょっとわけあって旅をしています。あなたは？」
少しドキドキする。旅の理由を聞かれたら笑われそうで。

「私はリンよ。よろしくね。」

この土地にしては珍しい名前のような気がした。

でもだびの理由を聞かれなかったのには

正直、ほっとした。

「ねえ……？私のお母さんが言っていたお話を聞いてくれない？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5132i/>

君の行方はどこですか？

2011年1月15日20時52分発行